校長室だより No.　12 平成 27 年 6 月 26 日(金)	強く　やさしく	六ツ美中部小学校校長 加藤嘉一（かとうよしかず）

授業研究が子供の力を育てる

若いって本当に魅力的だな、一生懸命工夫し準備する授業はエネルギーの強さを感じるなとつくづく思いました。

今週で教育実習が終わります。おとといの水曜日には、３人の教育実習生の先生方が、今回の実習の最後のまとめとして研究授業を行いました。３人の授業はというと・・・

【研究授業の内容】

○６年２組　木村　歩美先生　　算数「円の面積」

円の面積は、その半径を１辺とする正方形の面積と比べて何倍くらいか

○３年１組　本村奈菜美先生　　算数「たし算の筆算」

３ケタ＋３ケタでくり上がりが２回ある筆算の計算のしかたを考える

○１年１組　都築　千春先生　　国語「「は」、「へ」、「を」をつかってぶんをかこう」

「○○は、○○へいきました。」「○○は、○○を□□しました。」の文をつくる

３人が、この時間のために３週間前から何時間もかけ、授業案（Ａ４用紙３～４枚びっしり）をつくり、この授業に臨みました。その授業案を作るだけでも実習生としては大変だったと思いますが、授業の始まりで子供をひきつけるために、お菓子の絵を手作りで用意したり、算数も国語も生活場面を取り入れたり、手作りの工夫がたっぷりの授業を展開していました。子供は、とてもうれしかったと思います。こうした授業を見て、ある学者の言葉を思い出しました。

【ルソー　「エミール」より】

（教師は）子どもと共に歩む若い教師が理想的である。しかも若ければ若いほど良い。

若い先生は、子供も親近感をもつし、子供とつながる部分が多く魅力的です。

一方で、ある先生が、「教師など誰でもできると言った人がいてショックだった」という話しを聞かせてくれました。この「誰でもできる」の裏にある気持ちは、教員へ「もっと一生懸命がんばれ」という叱咤激励と受け止めます。しかし、もし「小学校や中学校の授業など簡単だ」「小学校や中学校の学習内容く

らいわかるから、授業ができる」ととらえている方が来て教育実習をしたら、たぶん苦労します。たとえば、１年生の国語の教科書のはじめには、絵しかないページがあります。45 分間どういう授業をすればよいか想像できるでしょうか。初めての教室で 45 分間じっと座っていることさえ、難しい子供たちでもあります。何を学ばせればよいか、そして、子供の側になってみて、どういう授業をすると学びが成立するのか。はじめは、１年生 35 人の集団に通じる言葉さえ見つからないかもしれません。

【本年度教育実習生の授業より】

わたしは、授業はとても難しいものだと思っています。子供を愛おしく思い、子供の見方や考え方、感じ方ってどんなものかを一生懸命とらえようとしないと授業はできません。未だに自分が授業をするとなると、不安でいっぱいです。初めて訪問した学校（市外・県外）で、知らない子供たち相手に特別授業をしたことが数回あります。しかし、トピックス的な授業をしたに過ぎず、本当にその子供たちがどう感じ、どういう学びができたかは、なんともいえないのです。やはり、いつもその子たちを見ている先生でないと、なぜその子が今その表情をしているのかなどがわかりません。発言した言葉も、それを言ったことの背景がわからないので、反応を見ながら自信もって授業を展開できないのです。「あの子がなぜここでこう言ったのかというと…」と、担任の先生から教えてもらうことがよくあります。やはり、担任の先生には勝てません。

こうしたことから、教員は、授業の力を高めるために、授業研究をします。特に、小さい子供ほど、自ら学習しようという意志で座っているわけではないので、子供とはどういうものかを学んでいかなければ、授業など成立しません。

本校に来て素晴らしいと思ったのは、研究授業で子供や先生の話した言葉をすべて文字に起こして、それをもとに研究協議会を開いていたことです。（これは大変な作業。一人できちんと授業の記録を正確に再現し、文字にするには、わたしの経験で早くて３時間はかかります）授業を文字で読み返し、その記録をもとに分析し、先生はどうするべきかを学びます。昨日も、道徳の授業に詳しい先生（岡崎市では指導員と言います）をお招きし、授業研究をしました。

こうした積み重ねが、子供の学力や心を育てる力となります。本校では、本年度６回以上の研究授業日を予定しています。